

保険者訪問



近代日本の幕開けの舞台
今は豊富な果物の産地に

みかんと史跡の里

玉東町



西南戦争の激戦地「吉次峠戦跡」(中央は詩碑)



ユーモラスな表情の「木葉猿」

玉東町は熊本県の北西部に位置し、東は熊本市、西は玉名市、北は和水町と山鹿市に面しています。南北に長い地形で、町の中央部を南東から北西に九州新幹線が走っています。

町には近代日本の幕開けとなった西南戦争の遺跡が点在し、そのうち7カ所が平成25年3月に国史跡に指定されています(明治以降のまとまった戦跡群の指定は全国初)。

遺跡のうち、西南戦争最大の激戦地田原坂(熊本市)に隣接する吉次(きちじ)峠は、当時交通の要衝で、横平山と併せて三大激戦地といわれ、官軍(明治政府軍)と薩軍の壮絶な戦いが繰り広げられました。中でも吉次峠の戦いでは、薩軍の猛攻により両軍ともに多くの死傷者が出て、官軍は「地獄峠」と恐れたといいます。

また、西南戦争では、元老院議員佐野常民の奔走により、町内にある正念寺(しょうねんじ)と徳成寺(とくじょうじ)で敵味方なく負傷兵の収容や治療活動が行われました。これが日本赤十字の始まりであり、玉東町は「日本赤十字発祥の地」といわれています。

一昨年(2023年)から西南戦争の鎮魂祭「博愛灯会(はくあいとうえ)」が開催されていて(町商工会主催)、役場近くの丸田公園から高月官軍墓地にかけて約3000個のキャンドルの灯がともされます。今年は3月28日(雨天時は29日)に開催予定です。

町の基幹産業は農業で、ミカンやスイカ、ナシなどの果物類、米などが高い評価を受けています。平成15年度からはスモモの一種ハニーローザの栽培を始め、22年度末には栽培面積全国一となりました。その加工品「ハニーローザアイスクリーム」は平成22年度熊本県優良新商品表彰事業で最高賞を受賞しています。

役場のある木葉(このは)地区には、伝統工芸品「木葉猿」の窯元があります。「木葉猿」は養老7年(西暦723年)、この地に住みついた都の落人が、夢枕に立った翁(おきな)のお告げにより奈良の春日大明神を祭って、木葉山の赤土で祭祀土器を作り、その残土を捨てたところ猿に化したという伝説から生まれたもので、悪病・災難除け、子孫繁栄のお守りとされています。

人 口	5,517人
国保被保険者数	1,693人
	一般 1,601人
	退職 92人
後期高齢者数	1,002人
世 帯 数	1,984世帯
	国保世帯数 888世帯
医療機関等数	医科 1機関
	歯科 2機関
	調剤薬局 ー
担 当 課	町民福祉課

(平成26年12月末現在)

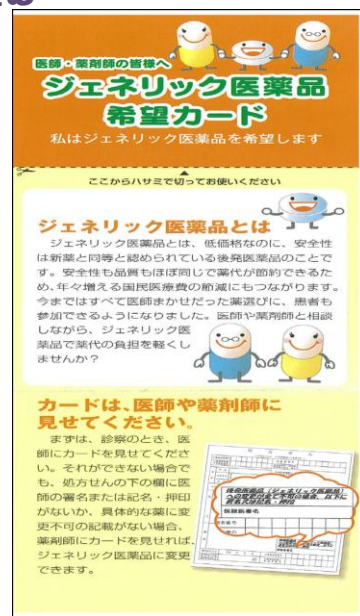
玉東町は国保、後期高齢者ともに県内でも医療費が低い方で、平成 20～24 年度における年間の 1 人当たり医療費はどちらも県内 45 市町村中 30 位台中ほどで推移しています。医療費の伸び幅そのものも小さい状況です。また、特定健診受診率は平成 25 年度 54.3%（法定報告値）と制度開始以来最も高くなっています。

医療費適正化に力を入れて取り組んでいるという町民福祉課と保健介護課の担当者にお話を伺いました。

ジェネリック医薬品の差額通知など医療費適正化に取り組む

国民健康保険税は平成 23 年度に税率と課税限度額を改定し、現在に至っています。国保の 1 人当たり医療費は、平成 20 年度 242,230 円から 24 年度 259,408 円と上昇していますが、伸び幅は 17,178 円で、県平均（32,607 円）に比べて緩やかです。（5 頁グラフ参照。）

医療費適正化に向けた取り組みとしては、レセプト点検や医療費通知を実施しており、平成 26 年度からはジェネリック医薬品の差額通知も実施しています。ジェネリック差額通知の実施にあたっては、制度周知のために、25 年度の被保険者証交付時にジェネリック医薬品希望シールの付いたパンフレットを同封して郵送しました。被保険者証入れのケースにシールを貼っている人も見かけられます。また、両課合同で年 1 回、医療費適正化のための検討会を開いて、国保の課題全般について話し合っています。今年度はデータヘルズ計画策定に向けた打ち合わせを中心に話し合いました。



がん検診との同時実施、ドック無料化などで受診率アップ

特定健診は集団と個別、人間ドックで実施しています。受診申し込みは、2 月にすべての住民健診の申込書を世帯ごとに区長が配布し、回収します。

集団健診は 4 月と 9 月に土日いずれかを含む 2 日間、町の保健センターで実施しています。平成 20 年度はがん検診と分けて実施しましたが、同時実施していたそれまでの住民基本健診に比べて受診率が下がったため、平成 21 年から同時実施に戻しました。個別健診は玉名健診センターと玉名郡市医師会の医療機関に委託して 6 月から 7 月に実施しています。また、人間ドックは玉名健診センターで実施しています。自己負担は集団が 1000 円、個別が 1500 円、ドックが 7000 円です。

未受診者対策としては、①申し込みしていない人への保健師や管理栄養士、看護師による文書や電話、訪問での勧奨②平成 25 年度から人間ドックの節目年齢の人への受診補助（41 歳・46 歳・51 歳・56 歳の自己負担無料化）③健康モデル地区での啓発——などを行っています。節目ドック無料化は特に若い女性に好評でよく利用されています。

健康モデル地区は、平成 23 年度から受診率の低い地区などを対象に健康全般に関する取り組みを重点的に実施しているもので、今年度は 3 地区で実施しています。中には若い人を中心に実行委員会を立ち上げ、アルコール問題など自分たちが気になるテーマの勉強会を開いている地区もあります。モデルになった地区では受診率も上がっています。

これらの取り組みにより、受診率は平成 20 年の 45.5%から毎年 51.5%、49.1%、52.7%と小幅ながらおおむね順調に伸び、25 年度は 54.3%となりました。

課題は、受診しない理由に一番多い「治療中だから」という人たちに受診してもらうことです。今後、医療機関との連携を図り、情報提供を得ることができるようになれば、受診率の向上も望めると思いますので今後の検討課題です。

利用しやすい、委託による特定保健指導と保健師・管理栄養士等による訪問指導

特定保健指導は玉名健診センターとくまもと健康支援研究所に委託しています。委託したことで、夜間や、運動教室と組み合わせての利用が可能となっています。また、特定健診を人間ドックで受診した場合はその日のうちに結果が出るのですぐ利用してもらえるとという利点もあります。実施率は平成20年度53.2%から24年度62.2%と9%伸び、対象者は109人から90人と約20人減少しています。保健指導による改善と、医療機関受診につなげることができた結果と思われます。利用意向のない人には町の保健師や管理栄養士が訪問指導しています。

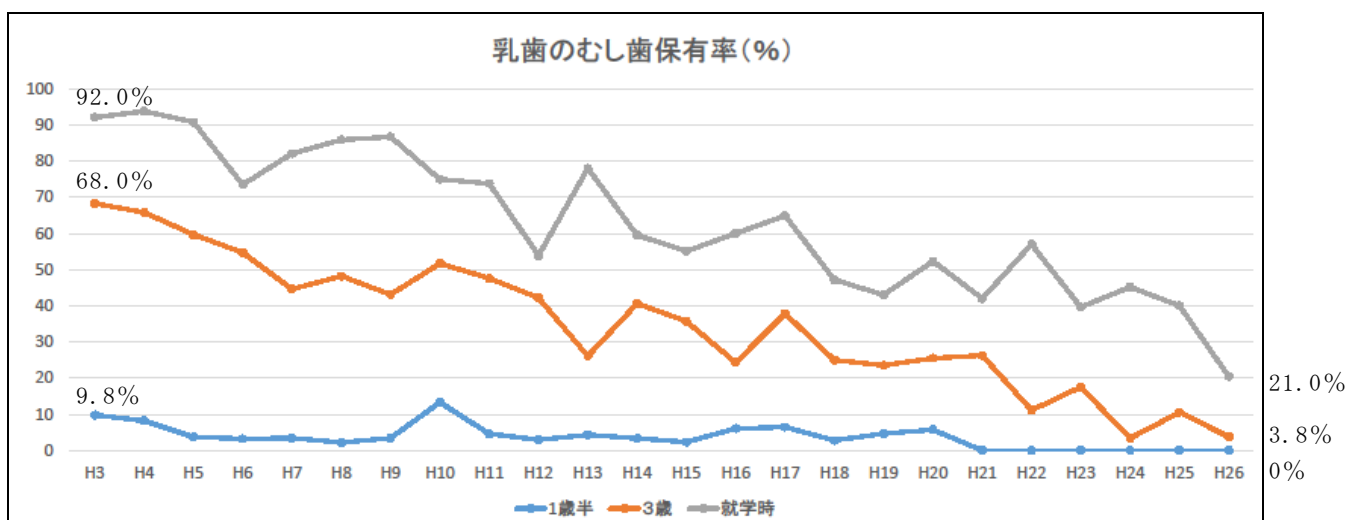
また、特定保健指導以外でも、重症化予防の取り組みとともに、来年度に向けたデータヘルス計画での分析結果から非肥満者の高血糖や、最近では高血圧と高尿酸値対策も課題とわかりました。高血圧の人の中には、「薬を飲み続けないといけなくなるから」と医療機関を受診しない人もいます。本人に自覚症状がない難しさもありますが、まずは基準値を理解してもらうように努め、ほかの保険者で成功した事例も参考にしながら、受診勧奨して医療につなげていきたいと考えています。

世代に合わせた取り組みで住民の歯を守っていく

玉東町では平成7年度から住民の歯科保健の向上を目的に、ライフステージに合わせた歯科保健対策と歯質強化のためのフッ化物応用を中心に事業を展開しています。

【乳幼児期、学齢期】

当時、子どもたちの歯罹患率が1歳6カ月児3.7%、3歳児59.7%、就学時健診90.8%と高い状況で、役場に歯科衛生士もいない時代でしたが、子どもの歯科保健に取り組むことになりました。歯科保健連絡会を立ち上げて、まず保育園の園医である歯科医に協力を求め、保育園や関係機関とも連携して事業に取り組んできました。平成7年度から保育園でフッ化物洗口を始めたのに続き、19年度からは小中学校でも実施しています。



【青年期】

平成20年度から始めた「二十歳の歯科健診」は、成人期の歯周疾患の早期発見・適切な保健指導・治療につなぎ、生涯自分の歯で豊かな生活を送れることを目的に、町内の歯科医師と玉名郡市歯科医師会、有明保健所、口腔保健学科のある九州看護福祉大学などの協力のもと、歯科医（今年度は計3人）が成人式の会場で振り袖やスーツ姿の新成人の歯を健診します。出席者は受け付けのあと、まず歯科健診を済ませてから式場に入る流れになっています。明るくはつらつとした笑顔の下に白い歯が見え隠れして、華やいだ雰囲気の中での歯科健診です。晴れ着を着て恥ずかしがりながらも、自分の歯の状態を歯科医師から聞く姿は真剣そのものです。

玉東町の成人式は、該当年度の若者が実行委員となって主催し企画しています。そのため、保健介護課の職員が実行委員会に向いて歯科健診の重要性を説明し、当日の企画に取り入れてもらっています。式後のアンケートには、「卒業後は歯科健診を受ける機会がなかったが、健診だけでなく先生にアドバイスももらえたとし、受けてよかった」などの感想が多く見られ、好評です。



また、女性の健診での歯周疾患検診と歯科指導、妊婦歯科検診費用助成、母子健康手帳交付時の歯科相談なども実施しています。

【壮・老年期】

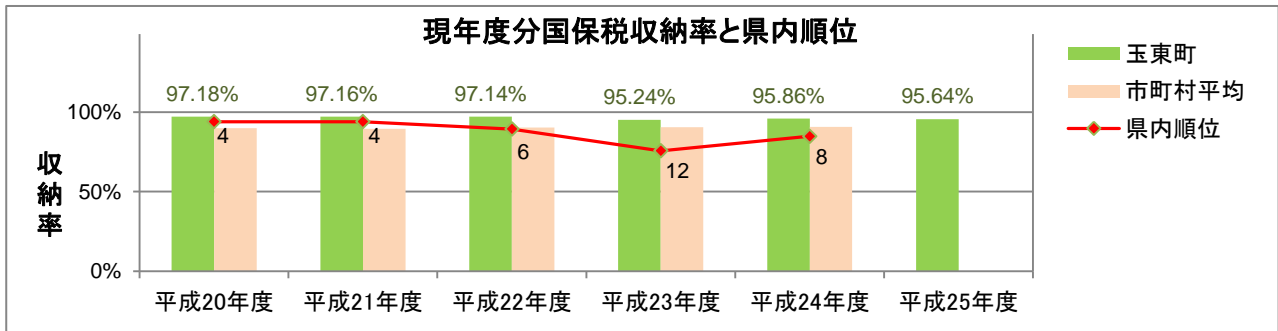
平成 21 年度から、がん検診時に歯科指導を行っています。25 年度は 40 歳代から 70 歳代まで計 289 人が指導を受けました。また、平成 23 年度から、65 歳以上の高齢者に対して介護予防事業の中で歯科指導を実施しています。

玉東町は 8020 達成者割合が平成 23 年 8%と県全体の 38.3%より低く、25 年度でも 12.9%にとどまっています。自分の歯を 20 本以上保有する人の平成 27 年度目標値を設定していて、25 年度特定健診時の歯周疾患相談アンケートによると 50~70 歳代では達成できていますが、最終的に全年代で達成できるよう、今後取り組んでいきたいと考えています。

このように、さまざまな機会に歯科指導や検診を実施して、生涯を通じた歯科保健対策に取り組んでいます。今後は、乳幼児の歯科指導に取り組み始めた当時の子どもたちが「二十歳の歯科健診」対象世代となるので、取り組みの効果の分析と検証も行う予定です。

郡内他町との併任徴収で収納率向上を目指す

国保税はほかの住民税と併せて税務課で賦課・徴収を行っています。下グラフのとおり、国保税収納率は平成 20 年度 97.18%（県内 4 位）と高かったのですが、その後、23 年度にかけて徴減を続け、24 年度、25 年度は若干持ち直している状況です。

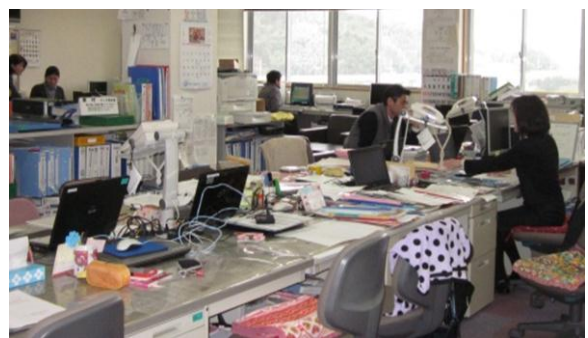


平成 20~24 年度は「熊本県国民健康保険事業状況報告書」より

収納率向上に向けては、夜間や休日に納税・相談窓口の設置、預貯金や給与調査による差押え等を実施しています。平成 22 年度からは玉名郡内 3 町（南関町・長洲町・和水町）と併任徴収協定を締結して合同で搜索や差し押さえなど滞納整理に取り組み、合同公売会を年 1 回実施しています。また、町単独でもインターネット公売を随時実施しています。

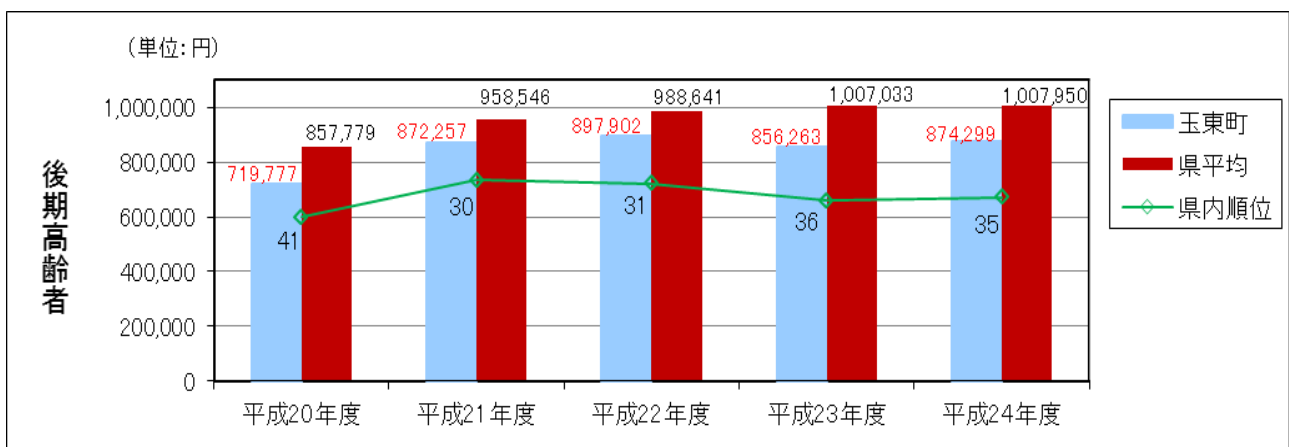
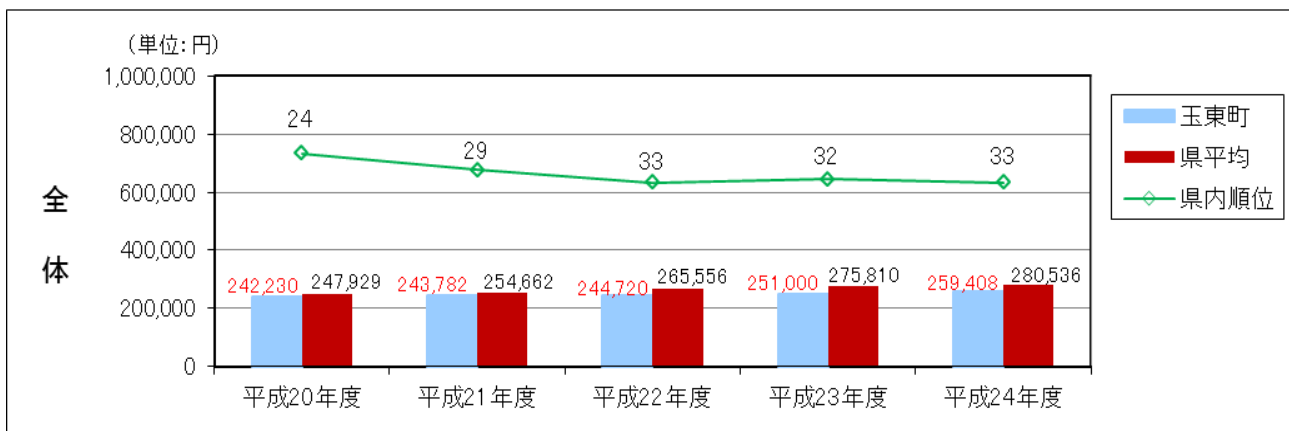
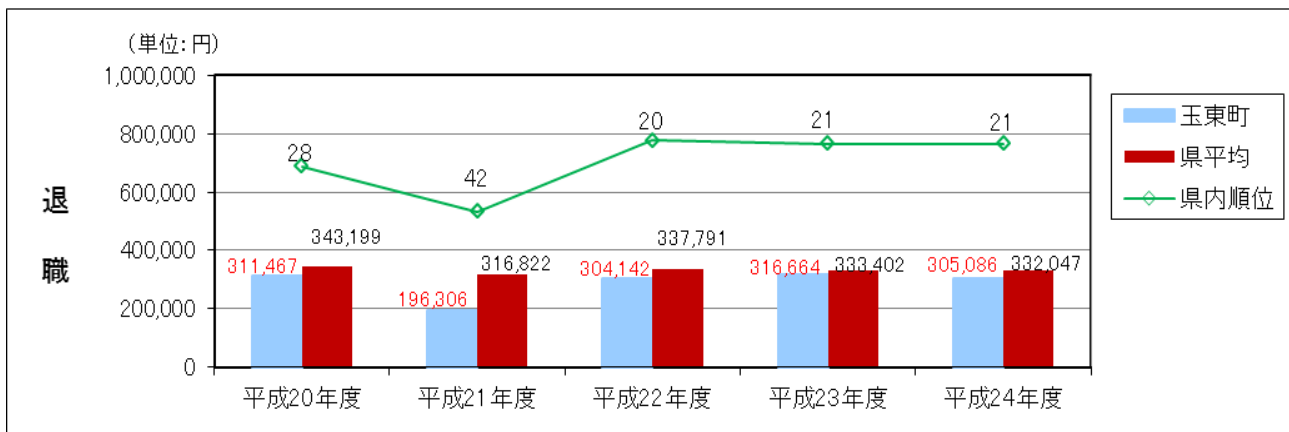
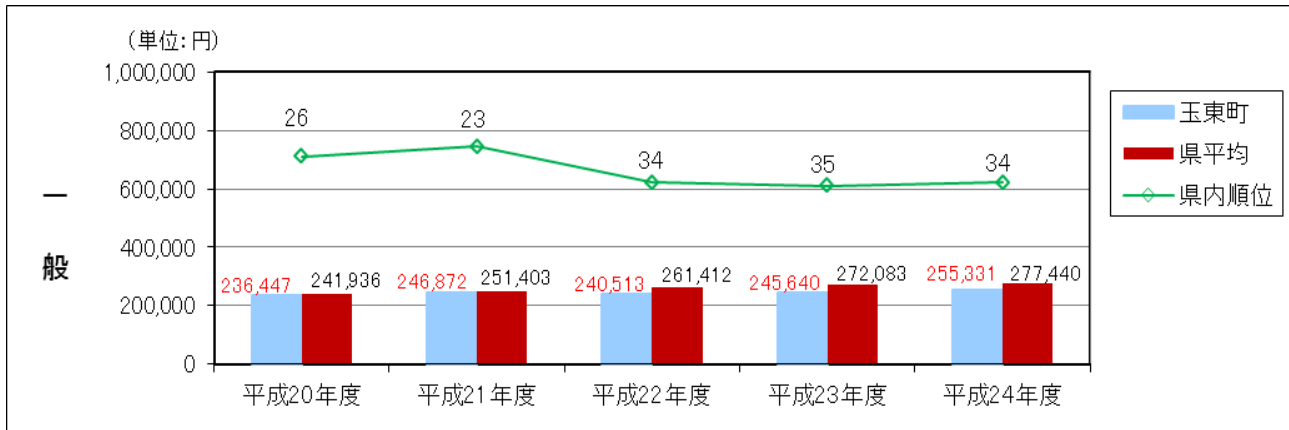


町福祉課の職場風景



保健介護課の職場風景

法制別 1人当たり診療費



注：一般は国保被保険者のうち退職者医療制度の適用を受けない者、退職は被用者年金の老齢(退職)年金受給権者で被用者年金の加入期間が20年以上又は40歳以降10年以上の者及びその被扶養者、全体は一般と退職の合計。